

まもなく秋の農繁期

【農作業に関連する火災予防について】

秋の農繁期を迎えるにあたって、農作業に関連する火災の予防を図るため、過去の火災事例と火災予防のポイントを取りまとめましたのでお知らせします。

◆ 火災事例1 トラクターの火災

<概 要>

走行中のトラクターから白煙が上がり停車したところ、エンジンルーム内から出火し、トラクターを全損。

<原 因>

エンジンルーム内の電気配線にショートした痕があり、そこから樹脂製の可燃物に引火し燃え広がった。

<予 防 策>

走行前や走行中に異音や異臭などの異常を感じた場合は、速やかに安全な場所に駐車し点検を行ってください。

また、定期的な点検・整備を行ってください。



激しく炎を上げ燃えるトラクター（正面）



激しく炎を上げ燃えるトラクター（左側面）

◆ 火災事例2 農業用倉庫分電盤での火災

<概 要>

農業用倉庫内に設置されていた分電盤内の低圧進相コンデンサから出火し、倉庫を全焼。

<原 因>

低圧進相コンデンサ内部の絶縁が経年劣化により絶縁破壊し、漏洩電流が発生して発熱、金属ケース内の温度上昇により絶縁油から分解ガスが発生して内圧が上昇、金属ケースが膨張して破裂し火災となった。

※ 低圧進相コンデンサとは、低圧 200V～600V で受電する作業場や飲食店などで、モーター等を使用する電気機器や業務用冷蔵庫の力率を改善し、電力を効率よく使用するための機器として、1940 年（昭和 15 年）頃から分電盤などに設置されています。

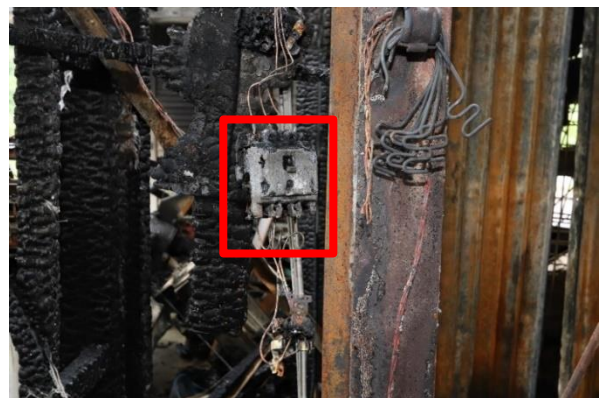
<予 防 策>

機器を使用しない時はメインブレーカーを切り、低圧進相コンデンサに電圧がかからないようにしましょう。

特に、1975 年（昭和 50 年）以前に製造された低圧進相コンデンサは、保安装置が内蔵されていないほか、経年劣化により火災に至る可能性がありますので、使用停止や交換を推奨します。



全焼した倉庫



低圧進相コンデンサ

◆ 火災事例3 穀物乾燥機(米乾燥機)の火災

<概 要>

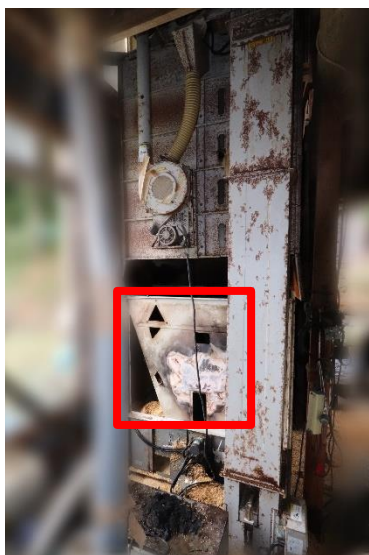
稲刈り時季の前に穀物乾燥機（米乾燥機）を試運転しようとして作動させたところ、乾燥機の内
部から出火し、倉庫を半焼したものの。

<原 因>

乾燥機内に堆積していた藁くずが温風により舞い上がり、バーナーに接炎し火災となった。

<予 防 策>

試運転も含め、使用前には必ず前回使用した際に発生した藁くずなどを清掃してから使用しまし
よう。



焼損した乾燥機



堆積している藁くず（出火部分内部）

◆ 火災事例4 たき火やもみ殻焼却による火災

<概 要>

焼却中にその場を離れたため周囲に燃え広がり火災となった。

<予 防 策>

農作業の一環として焼却作業をする場合は、事前に消防署へ届け出をするとともに、消火の準備をして、完全に消火するまでその場を離れない。

また、火災には至らなかったが、大量の煙が発生し付近住民や通行人が119番通報し火事騒ぎとなった事例も多くあることから、大量の煙などで周辺へ影響を及ぼさないよう、計画的に少量ずつ焼却する。



燃え広がったたき火の痕